



7/16 勝山の魅力に触れて

勝山ライオンズクラブの青少年国際交流事業の一環として、台湾からペイさん(19歳)が勝山市を訪れました。県立恐竜博物館やJAM福井勝山マウンテンリゾートなどを訪ねたほか、県立大学恐竜学部・勝山高校日本文化部との交流を通して、日本の文化や勝山の魅力に触れ、親睦を深めました。



▲(株)ファイネス
藤田幸治 福井支店長

明祥(株)
▼川尻洋光 社長

7/21 健康と安心を守るために

北陸を拠点に医薬品卸を営む、(株)ファイネスおよび明祥(株)と勝山市が、包括連携協定を締結しました。

この協定により、市民の健康増進と災害時における医薬品の安定供給体制の確保などが期待されます。



▲湯本眞土 代表取締役(写真中央右)

7/31 スポーツで地域を盛り上げる

勝山市と株式会社福井ブローウィングスが連携協定を締結しました。

この協定は、スポーツを通じて子どもたちの夢を育むとともに、「恐竜のまち」としての魅力を広く発信することを目的としています。



勝山から全国へはばたく

各種目で全国大会に出場する皆さんを、市長が激励しました。

対象者▶

- ・勝山高校日本文化部(郷土芸能)
- ・北川万葉さん(勝山高校・将棋)
- ・小場万由さん(成器南小学校・テニス)

ミチノクフクジュソウを守る!「自然共生サイト」に認定

福井県では勝山市北谷町にのみ自生し、環境省が準絶滅危惧、福井県が県域絶滅危惧Ⅰ類に選定している希少な植物「ミチノクフクジュソウ」。

かつては棚田の斜面に自生していましたが、耕作放棄などにより2000年頃には絶滅の危機にさらされるようになりました。2008年から市民団体「小原ECOプロジェクト」と村岡小学校が継続して草刈りや看板設置などの保全活動を実施。環境省や福井県、勝山市も協力する中、現在では毎年たくさんの黄色い花が見られるまでに回復しています。

この長年の取り組みが評価され、2026年6月、企業や地域団体などが生物多様性の保全に取り組む地域を環境省などが認定する「自然共生サイト」に「越前勝山小原ミチノクフクジュソウ生育地」が認定されました。小原ECOプロジェクトが保全に取り組む「越前勝山小原の森」も認定され、市内では、3月の池ヶ原湿原に続き3件が認定されています。勝山の美しい景観と生物多様性をこれからも未来につないでいきましょう。



JCHO-Column

「肝腎」と「肝心」

JCHO福井勝山総合病院
副院長(消化器内科) 松田 秀岳



「肝腎」と「肝心」、どちらの漢字が正しいかご存じでしょうか。実は両方とも正解です。辞書には「とても大切で、欠くことができないこと」と説明されています。古くから生命維持における肝臓の重要性は知られており、今回はこの肝臓について改めてお話しします。

「沈黙の臓器」と呼ばれる肝臓は、異常があっても自覚症状が出にくいのが特徴です。そのため、症状がないまま病気が進み、肝硬変や肝臓がんなど命に関わる重篤な状態になって初めて見つかるケースも少なくありません。

肝臓の状態を知る重要な血液検査項目に「ALT」があります。ALTの値が「30」を超えている場合、肝臓に持続的な障害が起きている可能性があります。そのため、病気の早期発見・早期治療のきっかけとして、健診などでALTが30を超えていた場合は、かかりつけ医への受診が勧められています。

かつて肝臓病の主な原因だったウイルス性肝炎(B型・C型)は、治療薬の進歩により減っています。代わって近年増えているのが、肥満や生活習慣病(2型糖尿病や脂質異常症など)、お酒を原因とする「脂肪肝」から進行する肝硬変や肝臓がんです。さらに脂肪肝は、心臓病や腎機能低下、脳卒中、高血圧、全身のがんリスクにも影響することが分かってきました。

「肝腎」や「肝心」という言葉は、千年も前の歴史書や漢詩にも登場します。昔の人もすでに、肝臓と腎臓や心臓との深い関係を認識していたのかもしれません。肝臓を守ることは、脳卒中やがんの予防にもつながります。まずは「お酒や脂肪分を控える」「野菜を多く摂る」「適度な運動をする」といった生活習慣の改善から始めましょう。そして、健診でALT値が30を超えていた方は、ぜひ一度お近くの医療機関を受診してください。

